四国歯誌　25（1）：11 ～ 13，2012

活動報告

ヘルシンキメトロポリア応用科学大学との学術交流事業報告

伊賀　弘起，市川　哲雄*

キーワード：国際交流，フィンランド，交換留学

A Report of Academic Exchange Program between The University of Tokushima and Helsinki Metroplia University of Applied Sciences

Hiroki IGA, Tetsuo ICHIKAWA*

1．学術交流事業の概要

本事業の目的は，社会福祉先進国フィンランドのヘルシンキメトロポリア応用科学大学との連携のもとに，国際的社会福祉教育プログラムを構築し，創造性教育の確立をめざすというものである。平成21年度，22年度においてヘルシンキメトロポリア応用科学大学との連携に関しては教員間協議や交換留学生の受け入れなどを行ってきた。さらに平成22年度には徳島大学歯学部とヘルシンキメトロポリア応用科学大学保健看護学部口腔衛生学科との間で部局間協定を締結し，そのなかで「エビデンスに基づいたオーラルヘルスプロモーション（E-OHP）教育」に関する共同研究も遂行しており，本年度はその成果を双方のカリキュラムに反映させるまでに至った。

2．平成23年度 学術交流事業の主な活動内容

1．ヘルシンキメトロポリア応用科学大学からの交換留学生の３か月間の受け入れ

従来この留学は，ヘルシンキメトロポリア応用科学大学学生が仙台の宮城高等歯科衛生士学院で３か月間学ぶプログラムのなかで，そのうちの２週間を本学科で過ごす学術交流プログラムであった。しかし平成23年３月に発生した東日本大震災において前述の専門学校宮城高等歯科衛生士学院が被災し，同学院での本年度の留学生受け入れが困難になったことから本学部へ３か月間の受け入れ要請があったものである。そこで本件を教員間で検討した結果，この受け入れが今後の国際的教育プログラムの開発に寄与するとの結論に達し，初めての試みとして３か月間の受け入れを受諾した。そのために平成23年８月に本学科教員がヘルシンキを訪問し，留学中のプログラムについて相手校の教員（国際コディネーター）と交換留学生，さらにはこの国際交流のオブザーバーである東北福祉大学准教授　渡部芳彦先生も交えて詳細に検討し，８月18日には今回の交換留学生受け入れに関する協定を締結した（写真１）。

写真１　交換留学生受け入れに関する協議と調印式

徳島大学歯学部口腔保健学科長
*徳島大学歯学部長
Director, School of Oral Health and Welfare, Faculty of Dentistry
*Dean, Faculty of Dentistry

写真2　留学生の基礎実習風景

写真3　徳島大学病院での病院研修風景

写真4　在学証明書および履修証明書授与式（学部長室）

昨年までの2週間プログラムに加えて基礎実習への参加（写真2），学外福祉施設や徳島大学病院での研修（写真3），英語によるセミナー，歯科診療所等の見学など，これまでにない新しいプログラムを立案し，平成23年10月7日から平成24年1月6日までの3か月間に実践した。さらにプログラム終了時には履修証明証を発行して将来の単位互換を含めた学術交流制度の基礎とした（写真4）。

2．共同研究「オーラルヘルスプロモーションに関する国際的教育プログラムの開発」の遂行

部局間協定に基づいて両学部間で遂行している共同研究「Evidence-based Oral Health Promotion（E-OHP）に関する研究」では1か月毎にそれぞれの研究成果と進捗状況を遠隔通信システムを用いて発表し，討議してきた。そのなかで昨年度の本学交換留学生2名とヘルシンキからの留学生も上記研究の一部を担当し，遠隔ビデオ会議にも随時参加した（写真5）。またこれまでの成果を踏まえて本学科では平成24年度のカリキュラムの再編の際に「オーラルヘルスプロモーション」の課目を新設した。

3．「International Week 2012」への参加と交換留学生の派遣

平成22年8月に締結した部局間協定に基づく「教員，交換留学生の相互派遣」の一環として平成24年3

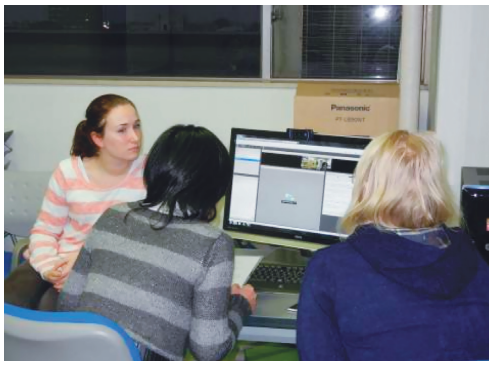

写真５　遠隔ビデオ会議（左：口腔保健学科の学生，右：ヘルシンキからの留学生）

写真６　口腔保健学科２年次学生のショートビジットプログラム
（フィンランド・ヘルシンキメトロポリア応用科学大学での“International Week 2012”にて）

月にヘルシンキにて開催された国際教育シンポジウム「International Week 2012」に本学から教員２名が参加し，国際教育連携と共同研究の成果を発表した。さらに本学部口腔保健学科２年次学生２名が交換留学生として同行し，「Curriculum of oral health promotion for the elderly at the School of Oral Health and Welfare, The University of Tokushima」のテーマで発表するとともにヘルシンキメトロポリア応用科学大学（歯科衛生士養成コース）の教育施設を視察した（写真６）。この交換留学は社会福祉先進国であるフィンランドの現状を知る良い機会となり，帰国後の学習意識を高める有効な動機付けにもなったと考える。なおこの学生派遣は独立行政法人日本学生支援機構による「平成23年度留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）プログラム」の支援を受けて実施した。

３．学術交流事業を終えて

平成23年度は東日本大震災によって前述のごとく計画の一部変更を余儀なくされた。なかでも最大の変更点は，協定を締結しているヘルシンキメトロポリア応用科学大学からの交換留学生の３か月間の受け入れである。当初は例年どおり２週間の受け入れで立案した計画であったが，３か月に拡大したことによってプログラムの抜本的な見直しが不可欠となり，それに伴ってさらに多くの教職員，学生の協力も必要になった。幸い歯学部のみならず多くの関係部局の教職員の協力も賜ったことで最大限の成果が得られたと確信している。

本取り組みの最終目標は遠隔授業を主体とした国際的社会福祉教育プログラムの構築であり，現在は平成25年春を目標に両国で導入可能な教育方略を模索しているところである。さらにこれまでの共同研究の成果を踏まえて口腔保健学科では教育カリキュラムを再考し，平成24年度より，新しい科目として「オーラルヘルスプロモーション」を導入することになったことは共同研究における最大の実質的成果であり，特筆に値する。また，本年度の共同研究の一部を２名の本学科４年次学生が担当し，その研究結果を卒業研究として報告したことも本事業の目的に合致するものである。

今後はヘルシンキメトロポリア応用科学大学との連携をさらに拡大し，より有効で永続可能な国際的教育プログラムを構築して，将来的には国内外の歯科衛生士養成機関と連携して健康長寿社会に貢献できる新しい医療人の育成につなげたいと考えている。

４．謝　　辞

本年度の学術交流事業の一部は四国歯学会および株式会社トクヤマデンタルの支援を受けて実施した。ここに深く感謝の意を表します。